

2026年2月26日

NTTドコモビジネス株式会社

通信キャリアの NaaS × データスペース接続をワンストップで 「データスペース接続ハブ」プロトタイプを公開

～Catena-X などの商用データスペースへ“かんたん・セキュア”につながる基盤を構築～

NTTドコモビジネス株式会社（旧 NTTコミュニケーションズ、以下 NTTドコモビジネス）は、企業がデータスペース^{※1}へ“かんたん・セキュア”に接続できる「データスペース接続ハブ」のプロトタイプ（以下 本システム）を2026年2月26日より公開します。本システムは、さまざまな機能を柔軟・リーズナブルに利用できる次世代型統合ネットワークサービスの NaaS（Network as a Service）^{※2}とデータスペースを利用するために必要な機能を統合し、国内企業の現場から簡単な操作で安全にデータスペースにつながる仕組みを提供するものです。

1. 背景

近年、環境への影響やCO₂排出、エネルギー使用量への関心が高まる中で、企業を取り巻く要請は大きく変化しており、投資家や金融機関からの評価、取引先や顧客との契約・調達、製品・サービスの提供、さらには不具合や事故発生時の説明責任など、企業活動のさまざまな場面において、環境負荷や品質に関する透明性の確保が求められるようになってきました。自動車産業をはじめとした製造業では、CO₂排出量の可視化だけでなく、部品の起源を遡れるトレーサビリティ^{※3}、不良部品の迅速な特定、需給変動の早期検知など、企業や国境を越えてデータをやり取りする場面が増加しています。

こうした中、データを一か所に集約するのではなく、各企業が自社のデータを管理したまま、必要な範囲の情報だけを相互に共有できる「データスペース」が国際的な標準として整備されつつあります。データスペースにつながることで、企業は従来難しかったサプライチェーン全体の可視化や実データにもとづく意思決定を実現することができます。

一方で、データスペース接続には、データスペース参加資格取得、マネージドコネクタ^{※4}設定、ユースケースアプリケーション^{※5}設定など、一定の専門的な知識やシステム設定が伴うため、それらが企業にとって負担となるケースがあります。

こうした状況を踏まえ、NTTドコモビジネスは「データスペース接続ハブ」の構想を策定しました。本システムは、データスペースの技術を活用し、企業がさまざまなユースケースにおいて、安全かつ容易に企業間でデータ連携できる環境を提供することを目的としています。

2. 本システムの特徴

本システムでは、シンプルなUIによる商用データスペースでのファイル共有機能と、通信キャリアのNaaSであるdocomo business RINK®^{※6}のコア機能であるセキュアドWAN^{※7}を利用した、Catena-X^{※8}などの商用データスペースへの安全な接続を提供します。

○かんたんにつながる

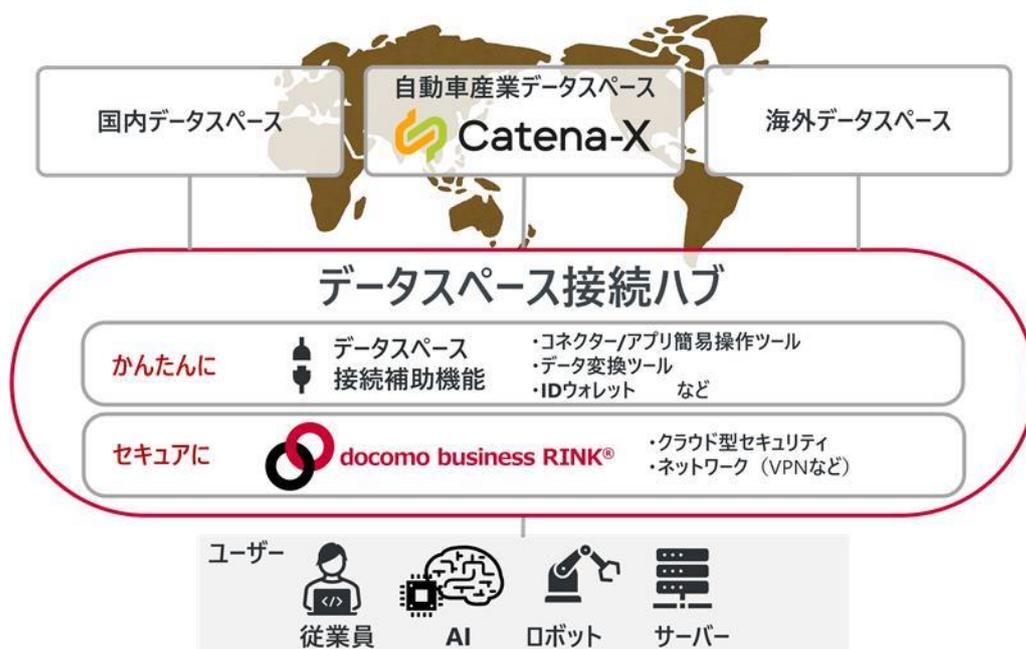
データスペースとの接続に必要なマネージドコネクタの操作を簡素化したシンプルなユーザーインターフェースを提供し、直感的な操作によるファイル共有を実現しました。具体的には、ドラッグ&ドロップのみでデータスペース上でのファイル公開が可能となり、専門的な設定を必要とせず、容易にデータ交換を開始できます。

○セキュアにつながる

セキュアドWANのセキュリティ機能、およびVPN^{※9}機能を活用し、お客さまの各拠点からデータスペースへの安全なアクセスを実現しました。

通信キャリアのNaaSとデータスペース接続機能を統合したネットワーク同梱型の接続システムを国内で提供するのは、NTTドコモビジネスが初めて^{※10}です。本システムにより、これまで企業が個別に対応していたネットワーク設定やマネージドコネクタ設定といった準備作業を一元化でき、データスペースへ接続する際の工数とセキュリティリスクを同時に削減します。

<データスペース接続ハブのイメージ>



3. 今後の展開

NTT ドコモビジネスは、本システムへ PCF (Product Carbon Footprint) ※11 や BP (Battery Passport) ※12 といったユースケースアプリケーション連携機能を実装し、データスペース接続ハブの商用プロダクト化を予定しています。また、新たなデータスペースやユースケースへの対応を順次拡大することで、さまざまな用途において“かんたん・セキュア”なデータスペース接続体験を提供してまいります。

今後、国内外で自動車産業以外にも幅広い領域で産業データスペースの立ち上げが進み、各分野のデータが安全かつ相互運用可能な形でつながっていくことが想定されます。NTT ドコモビジネスは、こうした潮流を見据え、データスペースの利用を検討するお客さまへの支援範囲をさらに拡大するとともに、社会課題解決のみならず、企業の競争力強化に資するユースケース創出にも取り組んでまいります。また、データ連携の前提となるトラスト領域（認証・認可や改ざん防止などの技術）の取り組みにも注力し、あらゆる企業が安心して産業データ活用に参加できる環境の実現をめざします。

「NTT コミュニケーションズ株式会社」は 2025 年 7 月 1 日に社名を「NTT ドコモビジネス株式会社」に変更しました。私たちは、企業と地域が持続的に成長できる自律・分散・協調型社会を支える「産業・地域 DX のプラットフォーマー」として、新たな価値を生み出し、豊かな社会の実現をめざします。

つながり。驚きを。幸せを。

 <https://www.ntt.com/about-us/nttdocomobusiness.html>

※1 データスペースとは、企業や組織が保有する業務・製品などに関するデータを、共通のルールに基づいて安全に共有するためのデータ連携基盤のこと。

※2 NaaS (Network as a Service) とは、ネットワーク機能をクラウド上でサービスとして提供する形態のこと。

※3 トレーサビリティとは、製品や部品について、原材料の調達先や製造・流通の履歴を遡って確認できる仕組みのこと。

※4 マネージドコネクタとは、データスペース上でデータ交換を行うために、認証・契約・データ送受信などの機能を標準化して提供する専用ソフトウェアのこと。

※5 ユースケースアプリケーションとは、特定の目的 (ユースケース) に応じて、データの作

成・共有・参照などを行うためのアプリケーションのこと。

※6 docomo business RINK[®]とは、ネットワークやセキュリティなど企業のICT基盤に必要な機能を統合して提供する NaaS (Network as a Service) のこと。

docomo business RINK[®]

※7 セキュアド WAN とは、docomo business RINK[®]で提供する VPN 機能とインターネット接続、アクセス回線、セキュリティ機能、およびそれらの設定管理機能を含めたコア機能のこと。

※8 Catena-X とは、自動車産業のサプライチェーンでのデータ連携を目的としたデータスペースのこと。

※9 VPN とは、インターネットなどのネットワーク上に仮想的な専用通信経路を構築し、拠点間やクラウドサービスと安全に通信を行うための技術のこと。

※10 NTT ドコモビジネス調べ (2026年2月現在)。

※11 PCF (Product Carbon Footprint) とは、製品の原材料調達から製造、輸送、利用、廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体で排出される温室効果ガス量を、CO₂排出量に換算して算定する仕組みのこと。

※12 BP (Battery Passport) とは、電池の原材料や製造履歴、環境負荷 (Product Carbon Footprint) などの情報をデジタルで記録・共有する仕組みのこと。